

Letter for Members 春 特別号 2004



日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 大山 喬史 編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 (財)口腔保健協会
Tel 03-3947-8891 Fax 03-3947-8341

平成16年5月20日発行

コンテンツ

「学術大会の年1回開催」へ ……1,2	会員の声 ……12
川崎貴生理事の夭折を悼む ……2-5	次期学術大会のご案内 ……12
生涯学習公開セミナーアンケート結果 ……5-7	今後の学術大会のご案内 ……13
PRPの発行数を年4号へ！検討中 ……7	支部のご案内 ……13
投稿論文数の推移 ……7	国際関連学会のご案内 ……13,14
国際学会報告 ……8,9	国内関連学会のご案内 ……14
支部学術大会報告 ……9,10	第111回学術大会フォーカス ……14,15
国内関連学会報告 ……10,11	ニュース ……6,7,14
表彰関係 ……11,12	

「学術大会の年1回開催」へ

会員各位

日本補綴歯科学会
会長 大山喬史

前略

会員の皆様には、日頃、本学会の運営にご協力を賜り、感謝申し上げます。

平成15年4月の会長就任から、早くも1年が経過しましたが、任期2年目の今年も、就任時に掲げた6項目の「重点課題」、(1)咀嚼機能と発語機能の検査・評価法の保健導入に向けた提言、(2)補綴診療におけるEvidence Based Dentistryの明示、(3)本学会の法人格取得・実現へ向けての準備、(4)グローバル化を踏まえた表彰制度の検討、(5)東南アジア諸国との学会間交流の活性化、(6)学会の年1回化に向けての準備の実現に努力していく所存です。

さて、ご承知のごとく、本学会では、平成15年秋の第110回大会時の総会におきまして、「社団法人の取得」を議決し、その実現に向けて準備を行っているところです。なお、この4月から

は、平成16年2月20日に開催されました理事会決定に基づき、本学会事務局長として、前鳥取大学事務局長 鈴木保典氏を迎え、(財)口腔保健協会内に事務所を設置し、定款の策定をはじめ、法人設立にかかわる諸々の作業を開始しております。

法人化に際しましては、まず「趣意書」と「定款」の策定が必要になります。この作業を行うに際し、「重点課題」の1つとして挙げました「学術大会の年1回化」の議論を進める必要があります。これに関しまして、前執行部からの方針を受け、「学術大会年1回化ワーキンググループ(座長：赤川安正 副会長)」を立ち上げ、平成15年8月30日と12月22日に会議を開催し、基本原則として、①学会のアクティビティーを下げないこと、②支部の独自性を確保すること、③生涯学習公開セミナーの一層の充実を図ること、を確認しております。また、「学術大会の年1回実施」のためには、各支部の活動が重要となるため、平成15年8月30日と平成16年1月31日に「支部長会(座長：野首孝祠 副会長)」を開催し、①総会時学術大会と支部学術大会の役割分担などを含む支部会のあり方について、②支部学会の開催時について、③支部学会開催にかかわる

経費などを含む会計について、④ 支部学会の発表内容と形式について、⑤ 認定医関連について、議論が進められました。なお、支部学会での運営、発表形式、当日会費などについては、今後、さらに検討していく必要がありますが、皆様方のお考えを反映できる支部学会の開催が可能であると確信しております。

そこで、来る5月に東京で開催されます「第111回日本補綴歯科学会総会」におきまして、「学術大会の年1回開催化」を議決していただき、あわせて法人化準備にかかわる諸事項の1つである「本学会の解散および清算」に関する会則改正をご承認いただきたいと思います。そして、この議決を受けて、本年10月に横浜で開催されます「第112回日本補綴歯科学会臨時総会」において、「法人定款を議決」していただき、平成18年度から年1回の学術大会を実施したいと思います。

前述の通り、「学術大会の年1回開催化」には、議論すべき多くの問題がありますが、各関連委員会が一致・協力して、検討し、対処していく所存です。どうぞ皆様におかれましてはご理解くださいますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、会員各位のますますのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

敬具

川崎貴生理事の夭折を悼む

平成16年2月11日、川崎貴生理事（北海道大学大学院歯学研究科教授）がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



川崎貴生 理事

〔略 歴〕

昭和23年3月5日 兵庫県豊岡市にて出生
昭和38年4月 兵庫県立豊岡高等学校入学

昭和42年6月 北海道大学歯学部歯学科入学
昭和48年3月 北海道大学歯学部歯学科卒業
昭和48年5月 北海道大学歯学部助手
昭和52年4月 北海道大学歯学部附属病院講師
昭和54年4月 北海道大学歯学部講師
昭和56年3月 歯学博士（北海道大学）
昭和56年12月 北海道大学歯学部助教授
平成元年9月～11月 北海道大学歯学部教授（歯科補綴学第一講座）
オレゴンヘルスサイエンス大学、コロンビア大学、UCLA（アメリカ合衆国）、コペンハーゲン大学（デンマーク）、イエテボリ大学（スウェーデン）、ヴェルツブルグ大学（ドイツ）に留学
平成7年4月 北海道大学歯学部附属病院長および北海道大学評議員（平成11年3月まで）
平成12年4月 北海道大学大学院歯学研究科教授（口腔機能学講座有床義歯補綴学分野）
平成13年4月 北海道大学歯学部附属病院長および北海道大学評議員（平成15年9月まで）
平成15年10月 北海道大学病院副病院長（平成16年1月まで）

〔学会関係〕

平成3年4月 日本補綴歯科学会評議員
平成6年4月 日本顎口腔機能学会評議員
平成7年8月 日本補綴歯科学会東北・北海道支部学術大会大会長
平成10年7月 歯科医師試験委員（平成14年6月まで）
平成13年4月 日本補綴歯科学会東北・北海道支部長（平成15年3月まで）
日本補綴歯科学会理事・教育問題検討委員長（平成15年3月まで）

平成 15 年 4 月 日本補綴歯科学会理事・研修教育検討委員長

平成 16 年 2 月 11 日没 享年 55 歳

〔所属学会〕

日本補綴歯科学会：認定医，指導医

日本顎関節学会：認定医，指導医

日本歯科理工学会：Dental Materials Senior Adviser

日本口腔インプラント学会：会員

歯科基礎医学会：会員

International College of Prosthodontists：会員

International Association for Dental Research：会員



日本補綴歯科学会
会長 大山喬史

川崎貴生先生ご苦労様でした。それにしても、先生ご自身、思い残すことも多く、無念なお気持ち察するに余りあるものがあります。私も日本補綴歯科学会の川崎先生に寄せる期待も大きかっただけに、先生の夭折に接し、痛惜の念に耐えないものがあります。

先生方と一緒に仕事をするようになりましたのは先生が病院長になられたときからでしたね。先生にとって、はじめての国立大学歯学部附属病院長会議のとき、その熱弁に強烈な印象を受けました。先生は病院長になられ、わずか 2 カ月だったのに、あまりによく勉強されていたことです。当時の国立大学歯学部附属病院の抱えている問題をいきなり取り上げ、なかでも臨床教育にかかわる先生の熱い信念をうかがい、感心させられました。川崎先生が北海道大学歯学部の 1 回生という自負心、責任感からでしょうか、教育にかける情熱は並大抵のものではありませんでした。そのとき以来、先生は頼りになる男として私の脳裏に印記されました。

私が日本補綴歯科学会会長を仰せつかって、かねてより臨床実習、研修問題の標準化を図らなければと思っておりましたので、先生をおいてははいないということで、即座に研修教育検討委員会の委員長をお願いしたところでした。過日の委員長会におきまして緻密なカリキュラムを拝見いたしました。

た。体調が思わしくないにもかかわらず、先生のきめの細かいご指導の下、立派なカリキュラムができあがりました。先生の教育に対する熱意、情熱に対して心より敬意を表します。ありがとうございました。これは是非、今後の研修医教育、臨床実習教育のマニュアルとして全国 29 大学で利用させていただきたいと思っております。医療人養成機関として、各大学も立派に社会に貢献できるものと信じております。

先生とは北海道、九州でゴルフご一緒させていただきましたね。北海道ではティーグラウンドに北きつねがちょこんと座って、われわれのティショットを眺めていましたね。少しも怖がらずに、むしろ笑っていたのかもしれないね。先生には珍しくもないことではと思いますが、わたくしにはとても印象深く鮮明に残っております。側には近寄ってはいけない、感染が怖いと話されておりましたね。九州では、凄い嵐のなかでやりましたね。みんなさんざんでしたが、今ではとてもよい思い出になりました。

先生の教育、研究面での業績は衆目の認めるところでありますが、組織の管理能力は一際ずば抜けた資質をおもちでしたね。北海道大学はもちろん、日本補綴歯科学会を近い将来背負っていかれる先生でしたのに、なにをそんなに急がれたのかと残念で仕方ありません。これは私だけではありません。先生の先見の明、判断の早さ、誰もが認めるところであり、先生への期待も大きかったと思います。しかし、先生の学問に対する真摯なお姿、教育に対する熱いほどの情熱は、これからの日本補綴歯科学会の先生方に確実に引継がれて行くものと思います。

先生におかれましては、あまりにも短い人生でありましたが、先生のご遺志、限りなく温かい友情は日本補綴歯科学会、友人の心のうちに生き続けることでしょう。どうぞやすらかに眠りください。心より先生のご冥福をお祈りいたします。
合掌



川崎先生がおもちであった、豪放でいて繊細、確固たる信念と柔軟な対応、抜群のバランスをベースとされるあふれる才能は、大学が法人化され、歯学が混迷をきわめる今日こそ、最も必要なものでした。今まで以上に北海道大学大学院歯学研究科や歯学部、大学病院はもちろんのこと、北海道大学全学からも、また、われわれの日本補綴歯科学会からも必要とされる時代がまさに来ていました。

だから、こんなに早く旅立って、どんなに無念だろう、どんなにくやしいだろうと思うと胸がつまります。しかし、先生が愛したご家族も大学も教室員も、そして私を含めた日本補綴歯科学会の仲間たちも、みんな先生の意を汲んで生きていくに違いありません。

川崎貴生先生、本当にありがとうございました。いくら感謝しても尽くせません。どうか安らかに眠りください。いまは、このことだけを心から祈っています。

合掌



北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座
口腔機能補綴学教室
齋藤正恭

2月11日、「川崎先生が亡くなりました。至急医局に来てください。」という突然の電話。医局に駆けつけると数人が電話でほかの医局員に連絡を取っていました。次々と現れた医局員の顔は皆蒼白で目もうつろ、言葉を発することもできない状態でした。そして霊安室で先生のご遺体との対面。そこにはいつもの川崎先生がいました。ただ眠っているような……。

3年前の夏、「首が痛い。肩が凝る。」との訴えから始まりました。歯学部附属病院長として激務をこなしているための疲労と思われましたが、精査の結果、前立腺癌の転移と判明しました。入院は2カ月に及びましたが退院後は何事もなかったように仕事をこなされ、周りからみている者としてはもっとゆっくりしていればよいのにと何度も思いました。ただ、回復は順調で翌年には大好きなゴルフをするまでになり、われわれも安心して

いたところでした。ところが、昨年夏頃から体調を崩し、部屋で休んでいるときもあったようですが、われわれの前ではそんな素振りは微塵もみせませんでした。そのように体調が万全とはいえないなか、9月の医局旅行に参加してくれました。宴席では酔って上機嫌な医局員をみて川崎先生はとてもしそうにしていました。仕事に関しては妥協を許さない厳しさをもっていました。このような席ではわれわれと一緒に楽しんでくれる一面もっておられる先生でした。そして先生の再入院の話聞いたのは仕事始めの日でした。病室を訪れると現在の病状について淡々と語ってくれましたが、その胸中は悔しきで一杯だったことでしょう。

先生の思い出は尽きることがありませんが、われわれは先生のご恩に報いるべく精進していこうと思っていますので、川崎先生、どうぞ安らかにお休みください。

また最後になりましたが葬儀の際に、数々のご厚誼を賜りました皆様にこの場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

生涯学習公開セミナーアンケート結果

平成15年に開始した生涯学習公開セミナーは中国・四国支部、九州支部、東海支部、西関東支部、東京支部の5カ所で実施されたが、そのセミナーで行われたアンケート結果を報告する（未記入の箇所は数に含めていない）。

生涯学習公開セミナーアンケート(1) 参加者数・構成について

支 部	九州	中国・四国	東海	西関東	東京	
参加者数	140	160	80	88	176	
アンケート回答数	56	126	62	39	108	
日本補綴歯科学会	会員	35	49	58	30	94
	非会員	21	77	4	9	14
職 業	歯科医師	44	62	61	33	108
	技工士	3	5	0	5	0
	衛生士	4	4	1	0	0
	その他	3	55	0	1	0

セミナーの開催をどのようにして知ったか(複数回答)	学会誌	12	19	30	17	59
	学会のポスター	9	8	4	3	18
	学会のホームページ	3	2	0	3	6
	歯科医師会の案内	15	26	2	6	2
	支部学術大会の抄録集	16	16	34	15	19
	雑誌の案内	0	1	0	2	3
	知人から	11	10	6	4	18
	その他	4	0	1	1	4
セミナーの時間	長い	0	10	2	0	1
	やや長い	5	26	5	2	13
	適当	42	76	49	34	84
	やや短い	0	3	4	1	3
	短い	2	1	0	0	0
	わからない	3	9	0	1	1
講演内容	満足	34	45	34	24	61
	やや満足	12	43	19	10	33
	やや不満	2	3	5	2	3
	不満	0	3	1	0	0
	どちらとも言えない	5	31	2	3	2

生涯学習公開セミナーアンケート(2) 参加者の感想, 意見, 要望

九州支部

- ・最新の情報が手に入り, とても興味深かった. 地方の歯科レベル向上のためにも今後とも続けていただきたい.
- ・今回のセミナーはトピック的なものであったが, Basic的なものを混在したセミナーを期待する.
- ・もう少し遅い時間に始めてほしい.

中国・四国支部

- ・普通の学会ではあまり聴くことのできない How to をゆっくり聴くことができよかった.
- ・このセミナーは学会と臨床医が直接意見を交換, 情報を交流できる企画と思う, 今後とも続けて欲しい.
- ・もう少し広い会場で行って欲しかった.
- ・学生がうるさかった.

東海支部

- ・今更と一見思う基本的なテーマだったが, 目からうろこで大満足でした.
- ・臨床的内容でとてもよかった. 今後も期待します.
- ・歯科医師のみならず, コデンタルスタッフにも興味ある内容も取り上げてほしい.
- ・最低3カ月前には講演内容をPRしてほしい.
- ・支部会は別の日にして欲しかった.

注(県歯科医師会の講習会が同時開催されていた.)

西関東支部

- ・今回のように大学人と開業医の組み合わせは非常に良かったと思う.
- ・学術的なことも大切ですが, 実際の臨床例をもっとたくさん紹介していただきたい.
- ・補綴学会に未加入の者にとって判断の資料と大いになる.
- ・本セミナーの目的, 対象, 方向性などを明確にしていける必要があるのではないかとと思う.
- ・もう少し事前に周知して欲しい.

☞ ニュース

法人会員新規加入希望会社(平成16年4月1日入会希望)

- ・相田化学工業株式会社
- ・ジェネリック・ペントロン ジャパン インコーポレイテッド
- ・山八歯材工業株式会社
- ・株式会社ブレンベース

e-Ha

イーハ



Heraeus

蘇る、審美・機能
そして卓越した操作性
まったく新しい人工歯

健康適用硬質レジン歯
許可番号: 27BY6021

ヘレウス クルツァー ジャパン 株式会社

フリーダイヤル: 0120-230-331(受付時間10:00~16:00/土・日・祝日を除く)

<http://e-ha.heraeus-kulzer.co.jp/>

注（横浜デンタルショー， 神奈川歯科医師会学術大会が同時開催されていた。）

東京支部

- ・ 卒後 1 年目ですが内容が非常にわかりやすかったし， 興味ある内容だった。
- ・ このようなセミナーがあると学会入会への糸口となると思う。
- ・ 今日のお話は内容も濃く， さすが東京支部でした。やはり大学の先生+ご開業の先生の組み合わせが成功のポイントと思います。
- ・ 日曜日の開催は有り難い。
- ・ 学会， 講演会の出席回数が各歯科医師の評価につながる時代なのでカードの提出などをしっかりと決めておく必要がある。
- ・ 補綴学会としての単位にもなっていないのはおかしい。誰が参加したか， やはり記録すべきではないだろうか。

PRP の発行数を年 4 号へ！ 検討中

現在編集委員会では本会の国際的な位置づけを明確にするために， 現行の和文誌 5 冊， 英文誌 (PRP) 1 冊を， 和文誌 4 冊， 英文誌 4 冊に変更するための検討がすすんでいる。

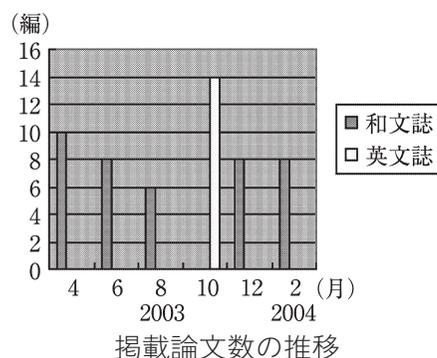
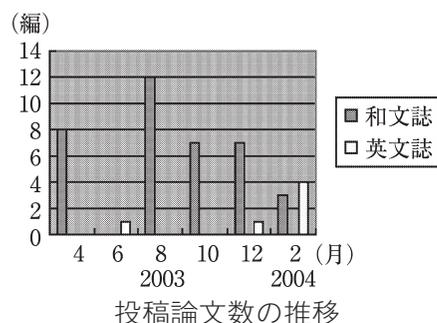
この背景には大山会長の「本学会の国際的な立場を確立するとともに， 学会の構成員の多くを占める大学所属の会員の業績評価も勘案すると， インパクトファクターの取得や MEDLINE への掲載は重要な課題である。一方， 臨床的な情報を含めて一般開業の先生方への情報発信も重要であり， その観点からも， 和文誌 4 冊， 英文誌 4 冊に変更することが妥当と考える」という意向がある。

PRP を年間 4 冊の発行とした経緯は， MEDLINE への掲載基準として， 年間 4 冊の発行が必要なためである。インパクトファクターの取得までは， 投稿論文数の確保が難しく， 会員に十分に

目的を周知する必要がある， 加えて海外からの投稿を募るなど， 投稿数の確保に努め， 早急にインパクトファクターの取得を目指すことが重要であり， これらの問題点を踏まえて， PRP の年 4 冊発行の平成 18 年度実現に向けての検討が継続中である。

投稿論文数の推移

平成 15 年度に日本補綴歯科学会誌に投稿された論文数および掲載論文数の推移をグラフに示す。和文誌掲載論文数の平均は 1 号あたり 11 編， 英文誌 PRP は 14 編であった。



ニュース

歯科医師賠償責任保険加入者数
(平成 15 年 12 月 31 日現在) 1,629 名
所得補償保険契約者数
(平成 15 年 12 月 31 日現在) 37 名



柔らかいまま & 清潔なまま
盛りやすい & はがしやすい

審美性に優れた「ライブピンク」と
厚みの差を判別しやすい「ホワイト」の 2 色。

独自の特殊構造とコート材により従来の弱点を克服!

柔らかさが、かつてないほど持続します。	スピーディに盛り上げられます。
良好な表面性状、清潔な状態を保ちます。	スムーズにはがせます。

コート材でしっかり接着。

暫脱裏装用レジジン
ジーシー ティッシュコンディショナー

国際学会報告

The 3rd Biennial Congress of Asian Academy of Prosthodontics (AAP)



学会会場

平成15年11月14日(金)～16日(日)に台北市Haward International HouseでAAPの学術大会が、台湾復歯学会との併催で行われた。

大会長 Dr. Yuh-Yuan Shiau の開会の挨拶で幕が開け、Keynote speakers である Dr. Beumer と Dr. Javonovic (UCLA) を中心に17の講演が行われた。日本からは24名のエントリーがあり、招待演者として平井敏博先生(北医大)が『Mastication and Brain』、佐藤裕二先生(昭和)が『New Approach of Implant Biomechanics』と題した講演が行われた。特別講演として、前田芳信先生(阪大)の『New Generation Magnetic Attachments for Implants and Natural teeth. "Dos and Don'ts"』では、マグネットを用いたインプラントアタッチメントの最新の研究について報告された。大会は、すべて英語、通訳な



オープニングセレモニー

しで行われた。ポスター発表は45題(日本から10題)あり、Poster awardには3人の先生方が受賞の荣誉に輝いたが、残念ながら日本からの受賞はなかった。

1日目の夜のパーティーでは、各国の講演された先生方と触れ合うことができ、大変貴重な体験をさせていただくとともに、開催国である台湾の方々の熱心さと積極性に触れ、われわれも、もっと国際的になる必要性を強く感じた。大会は、次期開催国であるタイの Benjapoto Yotnuengnit 大会長(平成17年8月9日～11日開催予定)に大会旗が渡され、盛会裡に幕を閉じた。

(リポーター：昭和 菅原)



会場前でリポーター菅原

第82回 International Association for Dental Reserch (IADR)



学会会場

照りつける太陽、吹き抜ける南国の風、片道7時間以上かけて降り立った場所は憧れのハワイ。平成16年3月10日(水)～13日(土)、今年

ホノルルの Convention Center にて IADR が開催されました。開催地がハワイということもあり、参加人数は例年よりも多かったとのこと。ポスター発表と口頭発表とを合わせると、4日間で4,000をこえる題目がありました。会場に集まった人数はそれ以上ですから桁違い。また人種も多種多様で、世界各地の研究者で溢れる空間にとって自分の存在に場違いさを感じました。さらにこの極端に広い会場のいたる所で連日、活発な議論が英語で行われており、日常会話すら覚束ない自分としては、駅前留学の必要性も痛感させられました。それにしても日本の学会とはまた違った緊張感とさまざまな視点からの質問は、自分にとって本当に貴重な体験でしたし、今後の研究への意欲をかきたてられました。また、企業のブースも多彩で世界各地から最新の歯科製品が並んでおり、自動車ショーを彷彿させる華やかさがありました。日本では考えられないことですが1日のセッションは昼過ぎに終わり、学会参加者もハワイを楽しめる気配り。そのご厚意に甘え、連日夜更けまでハワイを楽しんだのはいうまでもありません。世界の歯科医療の最先端をみられたことと初めてのハワイを満喫できたこととで、実に充実した学会参加でした。また、是非国際学会に参加する機会を与えていただきたいと願っています。

(リポーター：九大院 熱田)



アラモアナビーチ

支部学術大会報告

西関東支部学術大会



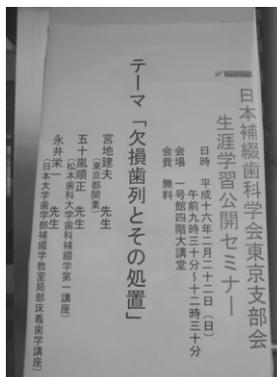
平成16年1月11日(日)に大会長：藤田忠寛教授(神奈川県歯科大学高次口腔科学研究所)のもと、パシフィコ横浜会議センターにおいて日本補綴歯科学

会西関東支部総会ならびに学術大会と生涯学習公開セミナーが開催された。さらに、当日は第2回神奈川県歯科医師会学術大会、神奈川県地域歯科医療研修会、横浜市歯科医師会が主催する第40回横浜デンタルショーが併催され、多数の先生方が参加された。

西関東支部学術大会では、一般口演9題、ポスター発表4題、認定医プレゼンテーション2題の発表があり、午後からの生涯学習研修セミナー(座長：森戸光彦先生(鶴見大歯学部高齢者歯科学講座))では、「コンプリートデンチャーの臨床」というテーマで中尾勝彦先生(中国・四国支部)が「訪問診療における無歯顎補綴の臨床」、細井紀雄先生(鶴見大歯学部歯科補綴学第1講座)が「デンチャースペースを考慮した高齢無歯顎患者の補綴診療」と題する講演を行われた。講演後公開セミナーとしては、異例ではあるが質疑応答が行われ、会場の会員、会員以外の先生から多数の発言があり、大会は盛会裡のもと終了した。

(広報 北川)

東京支部学術大会



平成16年2月21日(土)日本大学会館において、日本補綴歯科学会東京支部会ならびに第7回学術大会が大会長：三浦宏之教授(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学分野)のもと開催された。特別講演3題、一般口演

14題、認定医申請ケースプレゼンテーション4題の発表があり、多数の先生方が出席し、活発な質疑応答で閉会時間を大幅にオーバーして盛会裡に終了した。

翌22日(日)には、開催場所を日本大学歯学部1号館大講堂に移して、生涯学習研修セミナーが開催された(担当:日本補綴歯科学会東京支部長 早川 巖教授)。「欠損歯列とその処置」というテーマで永井栄一先生(日本大学歯学部補綴学教室局部床義歯学講座)が「支持・把持機構を考慮したパーシャルデンチャーの設計」、五十嵐順正教授(松本歯科大学歯科補綴学第1講座)が「欠損歯列の病態と補綴処置の基礎知識」、宮地建夫先生(東京支部)が「欠損補綴処置のアウトカム—長期経過から見た補綴介入の功罪—」と題する講演が行われた。会場は満員で日本補綴歯科学会会員以外の先生方も多数見受けられ、こちらも盛会裡のもとに終了した。

(広報 北川)

国内関連学会報告

第22回日本接着歯学会

平成16年1月24日(土)、25日(日)に、第22回日本接着歯学会が、大会長:田中卓男教授(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科顎顔面機能再建学講座)のもと、錦江湾を挟んで雄大な桜島を見渡せる鹿児島市民文化ホールにおいて開催された。

メインテーマ「人にも歯にも優しい接着歯科治療/桜島を眺めて熱く語る」のもとに、特別講演3演題と研究発表(口演発表とポスター発表)のプログラムが組まれていた。

特別講演は、学会初日にまず基礎的な立場から、桂 暢彦先生(長崎大学名誉教授)による「石灰化組織のコラーゲン像が示唆すること」と題して、コラーゲン線維の構造に関して従来の概念が根底から覆るような講演が行われた。学会2日目に臨床的な立場から、松村英雄教授(日本大学歯学部補綴学教室クラウン・ブリッジ学講座)による「貴金属接着システムの変遷と今後の展望」と鈴木司郎教授(アラバマ大学歯学部補綴

学・生体材料学教室)による「接着の実際—クリニカルリサーチから学んだこと」の講演が行われ、いささか沈滞気味の接着歯科臨床を現状打破するためには、研究者による材料や技術の開発と臨床家による継続的評価の二人三脚が必要性を示された。

研究発表は、初日に口演発表24題が行われ、7人の座長のもと熱心な質疑応答が繰り広げられた。2日目にポスター発表26題が行われたが、会場となった第2ホールロビーでは所狭しと討論が繰り広げられ、寒さを吹き飛ばすほどの熱気に溢れていた。

さらに、初日夕刻に学会会場近くのサンロイヤルホテルで開催された懇親会では、焼酎片手に接着談義に花を咲かせる会員の姿があちらこちらで見受けられた。

大寒の暦どおりに寒波がおとずれ、雪の舞う鹿児島であったにもかかわらず、大勢の方の参加で会場は熱気に包まれ、とても有意義な2日間であった。

(広報 瀨野)

第21回日本口腔インプラント学会九州支部学術大会

平成16年2月21日(土)、22日(日)に、第21回日本口腔インプラント学会九州支部学術大会が、大会長:近藤俊彦先生(大分県歯科医師会会長)、実行委員長:安部成善先生のもと、別府コンベンションビューロー B-Con Plazaにおいて開催された。

21日には、まず認定医更新用教育講座として、井上 孝教授(東京歯科大学臨床検査学研究室)が『インプラントのエヴィデンス2003』と題して、「置換医療」および「再生医療」について基礎的な立場からわかりやすく講演された。引き続き、場所を別府亀の井ホテルに移して、多数の出席者のもと盛大な懇親会が行われた。

翌22日は、書道家の西村春齋氏による書道パフォーマンスと香月 武先生(佐賀医科大学名誉教授)によるバイオリン演奏のコラボレーションによるオープニングセレモニーで始まった。

午前中は特別講演が行われ、ITI インプラントで著名な G. クレッケラー教授（フライブルグ大学）が 30 年にわたる臨床例における総合知見から、インプラント療法が今や一般診療の 1 オプションであることを示された。

午後には、教育講演と一般口演が行われた。教育講演では、歯科衛生士向けとして武田孝之先生（東京都開業）が『チェアサイドで役立つインプラントの基礎知識』と題して、また、歯科技工士向けとして松下恭之助教授（九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座）が『機能回復と生体・コンポーネント保全のためのインプラント補綴ガイドライン』と題して、それぞれ非常にわかりやすく講演された。一般口演の 58 題は支部学術大会としては驚くほど多いものであり、3 会場に分かれて同時進行で行われ、先端技術の研究から一般臨床における症例報告にいたるまで、さまざまな発表が行われた。

22 日は小雨がぱらつくあいにくの天候であったにもかかわらず、大勢の方の参加があり、現在の歯科医療における患者のニーズに応えようとする歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の方々のインプラント治療への関心の高さが現れていた。

（広報 濱野）

表彰関係

特別功労賞

- 五十嵐孝義（日本大学歯学部補綴学教室クラウン・ブリッジ学講座）
- 大木一三（日本大学歯学部補綴学教室局部床義歯学教室）
- 権田悦通（大阪歯科大学高齢者歯科学講座）
- 坂口邦彦（北海道医療大学歯学部歯科補綴学第 2 講座）
- 佐藤隆志（岡山大学歯学部歯科補綴学第 2 講座）
- 橋本京一（松本歯科大学歯科補綴学第 1 講座）
- 保母須弥也（国際デンタルアカデミー）
- 松元 誠（東京医科歯科大学歯学部顎顔面機能統合評価学講座）

- 森谷良彦（日本大学歯学部補綴学教室総義歯学講座）
- 川崎貴生（北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座有床義歯補綴学分野）

学会論文賞

- ・井上 宏（大阪歯科大学附属病院欠損歯列補綴咬合学講座）
「Effect of Height Occlusal Interference on Dopamine Release in the Prefrontal Cortex of Rats」Prosthodont Res Pract 2 (1) : 35-42, 2003
- ・平井敏博（北海道医療大学歯学部歯科補綴学第 1 講座）
「唾液分泌量が咀嚼効率に及ぼす影響」補綴誌 47 (3) : 526-534, 2003

中堅優秀論文賞

- ・木本克彦（神奈川歯科大学歯科補綴学講座）
「Effect of mandibular ridge height on masticatory performance with mandibular conventional and implant-assisted overdentures」The International Journal Oral & Maxillofacial Implants 18 (4) : 523-530, 2003
- ・高山慈子（鶴見大学歯学部歯科補綴学第 1 講座）
「金銀パラジウム合金の変色に関する研究 第 2 報 合金組成と耐変色性の関係」補綴誌 47 (4) : 652-661, 2003

Happy Smiles Heartful Communication

心身ともに健やかに……
これがモリタの願いです





株式会社モリタ
株式会社モリタ製作所
株式会社モリタ東京製作所

www.dental-plaza.com

特定推進研究優秀論文賞

- ・小野高裕（大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座）
「Digital Subtraction Angiography を用いたグミゼリーの咀嚼・嚥下動態評価」補綴誌 47 (1) : 107-116, 2003

奨励論文賞

- ・阿部菜穂（鶴見大学歯学部歯科補綴学第2講座）
「仮着材使用後のポスト孔における各種清掃法による仮着材除去効果の評価」補綴誌 47 (1) : 28-37, 2003
- ・小川 有（岩手医科大学歯学部歯科補綴学第2講座）
「クレンジングに対する筋電図バイオフィードバックの閾値設定に関する研究」補綴誌 47 (2) : 316-325, 2003
- ・高場雅之（昭和大学歯学部冠橋義歯学教室）
「咬合力による咬合接触状態の変化と咀嚼機能」補綴誌 47 (3) : 535-544, 2003
- ・藤波由希子（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能評価学分野）
「Changes in Postural Control of Complete Denture Wearers after Receiving New Dentures-Gait and Body Sway-」Prosthodont Res Proct 2 (1) : 11-19, 2003

会員の声



高山慈子
鶴見大学歯学部
歯科補綴学第1講座

論文名：金銀パラジウム合金の変色に関する研究
第2報 合金組成と耐変色性の関係

この度は平成15年度日本補綴歯科学会中堅優秀論文賞にご推薦いただき、誠にありがとうございました。大変光栄に存じます。本論文は金銀パラジウム合金の変色をテーマに、文部科学省科学研究費補助金を受け、6年前より行ってきた一連の研究のひとつです。保険制度の関係から、長年にわたり私も金銀パラジウム合金用いた補綴装置を口腔内に装着してきました。そのなかで、金銀パラジウム合金による鑄造鉤が著しく変色を示す症例と、光沢を失わない症例があることに疑問をもちました。研究を進めるうちに、口腔内での歯科鑄造用金属の変色や腐食が、細菌叢や唾液の性状、歯周疾患や口腔清掃状態、日常生活習慣などの総合的な口腔内環境と深いかかわりがあることがわかってきました。しかし、個々の口腔内環境を大きく変えることは難しく、また臨床的には変色防止のための対策にも限りがあり、なかなか解決策を見いだすことができません。これからも日常臨床のなかで感じた疑問を研究していければ、と考えております。

今回の研究にあたり、終始多大なるご協力をいただきました(財)ライオン歯科衛生研究所の石川正夫、渋谷耕司両氏に深謝いたします。また、ご指導いただきました鶴見大学歯学部歯科補綴学第1講座 細井紀雄教授に深謝いたします。
誠にありがとうございました。

次期学術大会のご案内

第112回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成16年10月15日（金）、16日（土）
会場：横須賀芸術劇場・横須賀産業交流プラザ
大会長：豊田 實（神奈川歯科大学）

課題口演

1. チェアサイドにおける咀嚼・嚥下機能評価法の開発、
2. チェアサイドにおける発語機能評価法の開発、
3. 審美、
4. 新材料、
5. バイオテクノロジー、
6. インプラント、
7. 咬合と全身

今後の学術大会のご案内

第113回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成17年5月14日（土）、15日（日）
会場：グランキューブ大阪（大阪国際会議場）
大会長：野首孝祠（大阪大学大学院）

第114回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成17年10月1日（土）、2日（日）
会場：朱鷺メッセ
大会長：河野正司（新潟大学大学院）

支部会のご案内

東北・北海道支部

開催日：平成16年9月11日（土）
会場：ホテルメトロポリタン盛岡
大会長：石橋寛二（岩手医科大学）

関越支部

開催日：平成16年9月12日（日）
会場：日本歯科大学新潟歯学部講堂
大会長：小出 馨（日本歯科大学新潟歯学部）

東関東支部

開催日：平成17年3月20日（日）
会場：水戸プラザホテル
大会長：會田雅啓（日本大学松戸歯学部）

東京支部

開催日：未定
会場：未定
大会長：新谷明喜（日本歯科大学）

西関東支部

開催日：平成17年2月予定
会場：未定
大会長：未定

東海支部

開催日：平成16年11月28日（日）
会場：松本歯科大学
大会長：五十嵐順正（松本歯科大学）

関西支部

開催日：未定
会場：未定
大会長：未定

中国・四国支部

開催日：平成16年9月5日（日）
会場：高知東急ホテル
大会長：本田常晴（高知県）

九州支部

開催日：平成16年8月28日（土）
会場：福岡県歯科医師会館
大会長：佐藤博信（福岡歯科大学）

国際関連学会のご案内

8th Biennial Meeting of Asian Academy of
Aesthetic Dentistry
(第8回アジア歯科審美学会学術大会、共
催：第15回日本歯科審美学会学術大会)

メインテーマ：Sciences in Esthetic Dentistry
開催日：平成16年7月16日（金）～19日（月・祝）

会 場：名古屋国際会議場（〒456-0036 名古屋
市熱田区熱田西町 1-1）

全日空ホテルズ グランコート名古屋
（〒460-0023 名古屋市中区金山町
1-1-1）

大会長：千田 彰（愛知学院大学歯学部保存学第
1 講座教授）

Web Site：http://www.jdshinbi.net/aaad/

E-mail：aaad@jdshinbi.net

※詳細は大会ホームページへ

第 111 回学術大会フォーカス



第 111 回日本補綴歯科学会学術大会
第 2 回 日・韓共同学術大会
大会長 大山喬史

第 111 回日本補綴歯科学会学術大会が、来る平成 16 年 5 月 21 日～23 日に東京都・文京シビックホールで開催される運びとなりました。本大会は第 2 回となる大韓歯科補綴学会（KAP）との Joint Meeting ともなっており、いつにも増して会員の皆様、関連する方々には多大なご協力をいただき、心より感謝いたしております。主管校を代表してお礼申し上げます。

本学術大会の特別講演では「審美歯科を美術解剖学・心理学からみる」と題し、早稲田大学の山崎先生に心理学の面から、東京芸術大学の宮永先生には美術解剖学の面から、口もとの美についてアプローチして頂き、機能美・形態美にとどまらないトータルな美を追求していく予定です。シンポジウムとしては「8020 と補綴臨床」を企画し、ここでは、8020 運動の生い立ちから、補綴学と

国内関連学会のご案内

第 23 回日本歯科医学教育学会学術大会

開催日：平成 16 年 7 月 1 日（木）、2 日（金）

会 場：朱鷺メッセ

大会長：山田好秋（新潟大学大学院）

第 17 回日本顎関節学会学術大会

開催日：平成 16 年 7 月 3 日（土）～5 日（月）

会 場：朱鷺メッセ

大会長 河野正司（新潟大学大学院）

メインテーマ：顎関節治療の最前線

NC VERACIA

ナノテクノロジーと
機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

NC Veracia

医療用具承認番号 21100BZZ00751

NC ベラシア アンテリア

硬質レジン歯（前歯用）1組…¥780 色 調：A1、A2、A3、A3.5、B2
形 態：上顎5形態、下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272

NC ベラシア ポステリア

硬質レジン歯（臼歯用）1組…¥1,040 色 調：A2、A3、A3.5、B2
形 態：上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格（消費税抜き）です。

SHOFU 世界の歯科医場へ貢献する
株式会社 松風
本社●〒605-0983京都市東山区福福上高松町11-TEL(075)561-1112(代)

☞ ニュース

日本補綴歯科学会会員数（平成 16 年 2 月 17
日現在）

正会員 6,421 名

準会員 10 名

法人会員 46 社

名誉会員 52 名

雑誌寄贈先 109 団体（国内）

27 団体（外国）

計 6,665 件

のかかわりにいたるまで、補綴学以外の分野からも多彩な講師をお招きしご講演いただく予定です。また、研究教育研修では、「クリニカルパスと症型分類」と銘打った研修が企画されており、歯の欠損に伴う障害とその評価についての提言が行われます。本大会は「口腔の機能を測る」をメインテーマとしておりますが、研究教育研修で取り上げられる障害の評価、さらに補綴治療効果の判定のためには咀嚼・発語機能の評価法の確立が欠かせないことはいうまでもありません。課題講演・一般講演・ポスターセッションにおいて活発な議論が行われることを期待しております。さらには、臨床教育研修として「歯科補綴治療における診査・診断」、技工セッションにおいては「電鑄システムを応用した歯科補綴装置」が企画されております。いずれも、臨床に直結したテーマであり、会員の皆様の明日からの臨床にお役立てるものと期待しております。最後になりますが、KAP会長のDr. Choにインプラントについての特別講演をお願いしており、また国際セッションへは両国より、口演9題、ポスター17題と多数の演題が寄せられ、活発な学术交流が行われることを期待しております。

以上のように、本大会では7つの多彩な企画が用意され、加えて、165題もの研究発表が予定されております。今後の日本補綴歯科学会のますますの発展のため、多くの皆様の参加と活発なディスカッションをお願い申し上げます。

切り取り線

学術大会に関するご意見

日本補綴歯科学会に対するご意見・ご希望

広報委員会に対するご意見・ご希望

学会および広報委員会へのご意見ご要望をお寄せください

日本補綴歯科学会広報委員会

委員長：沖本公繪

副委員長：北川 昇

委員：貞森紳丞，瀨野 徹，松山美和

幹事：諸井亮司

TEL：092-642-6371，FAX：092-642-6374

E-mail：kohoips@dent.kyushu-u.ac.jp

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座

咀嚼機能制御学分野

アンケートボックスへご投函下さい

学術大会に関するご意見

切り取り線

日本補綴歯科学会に対するご意見・ご希望

広報委員会に対するご意見・ご希望